

勢い余って今度は表紙!!

キャプテンストライダム



今度の新曲は胸キュン・ポップ・ナンバー

●「流星オールナイト」はいつくらいに書いた曲なんですか？

永友：これは上京して（※1）最初に作った曲ですね。去年の5月末から6月末ぐらいです。

●実はすごく意外だったんです。メロディも含めてここまでストレートな曲というのが。メロディとかがちょっとひねくれてるというのがキャプストの特徴と思ってたんです。でも、「流星オールナイト」はスッと入って来たというか、永友：周りからも言われますね。「今回はストレートだね」とか「直球だね」とか。

●でも、じっくり聴くと「直球」とまではいかないかなと。

永友：うん、そうですね。今まで通りなんだけど、ラブソングでスタンダードなものを作りたいっていうのはあったんです。

●恋愛に関して歌った曲は今までにもありましたけど（※2）、これまでの曲はなかったですね。永友：初めてだと思います。

●“こんな恋愛をしてみたかったな”という高校生の自分が感じていた憧れを成仏させるつもりで作った”ということですか？

永友：はい。高校生の頃はまったく色恋沙汰はなかったですね（※3）。好きな子は…いいましたけど、もう完全にシャットアウトです。一人相撲の横綱です（笑）。

●実はイチャイチャしたかったです（笑）。永友：イチャイチャしたいと（笑）。好意を持って子にはそういう感じがあったんですけど、あとは部活の先輩だったり学校の友達とかと何

かのきっかけで一緒に電車に乗ったりした時に、なんかこう甘酸っぱくなるんですよ。

●甘酸っぱくなる？好きな人と居ると？

永友：いや、好きな人も限らないんですけど。「この感じ何だろうな？」っていうのがあって、それを表現したかったんです。

●…ふ、複雑ですね。

永友：わかりにくいですよ。この曲で表現したかったのは、ひとつは“憧れ”なんですよ。それともうひとつは、憧れの一步手前、好きな人と手をつないで歩いたりってことではないんですけど、なんかふとした時にその一步手前みたいな…何て言うんだろうなあ。

●初恋予告編みたいな？

永友：そう、初恋予告編みたいな瞬間があるんですよ。なんか汗かいてきましたけど（※4）、そんな部分なんです。

●歌詞に“ギューと手を握ればおなじ強さで君が返した”とか、結構リアルな表現が入ってるじゃないですか。こういうのは…妄想？

永友：初めてだと思います。

●要するに、痛い曲ってことですね。

永友：ぶっつけ、痛い。

●（笑）。梅田くんと菊住くんは、この曲を初めて聴いたときは意外じゃなかったですか？

梅田：ちょっと意外ではたね。「こういうコード進行の曲を持ってくるとは！」って。単純に今まででなかっただけで、いつかはくると思ってたんです。

菊住：僕は意外じゃなかったですね（※5）。「お、いいのがきた」っていう。

●スタッフから聞いたんですが、歌詞は何回も

シュールでポップでブッコロリー！エンタテインメントロックの真骨頂、キャプストが「マウンテン・ア・ゴージャス」の次に贈るのは、ポップで胸キュン、とってもスタンダードなラブソング。

あのキャプストがラブソング!?歌にするような恋愛経験なんてある!?…と、音楽シーンに様々な波紋を呼んでいるキャプストの3人に、真相を聞いたのだ!

L→R

菊住守代司 キクスミモリヨシ (Dr.)

永友聖也 ナガトモセイヤ (Vo./G.)

梅田啓介 ウメダケイスケ (Ba.)

書き直したらいいですね。

永友：そうです。歌詞もそうなんですけど、アレンジとかコーラスも、何回やってももっと良くなる気がするっていうか。実は、スタジオで最初に3人で合わせた時の盛り上がりっていうのが「マウンテン・ア・ゴージャス」を作った時と同じくらいあったんですよ。で、これはすごい重要な曲になるっていう予感して、それに比べるとまだ負けてるっていう。他の曲とかも作りながら、この曲はなかなか完成しないままずっと時間が過ぎちゃって。で、12月ぐらいに松本隆さんのお宅に行ってる。

●お宅まで行ったんです。

永友：はい。お邪魔して。5パターンぐらい歌詞書いたんですけど自分で出口が見えなくなってたんでアドバイスを、とまではいかなかったんですけど、話し相手になっていただくと思って。そういう経緯を経て自分が納得出来る歌詞が出来たんです、今の形なんですけど。誰が何と言っても僕はこれがいいと思ってる。その時にもうシングルしか考えられなかったんですよ。

●以前、音作った曲は適当に作った曲が多かったとおっしゃってましたけど（※6）。

永友：そうですね（笑）。この曲は今までいちばん時間もかきましたね。

●歌詞で“空はビター待ちわびた日は三日後に延びた”という韻を踏んでいる部分とか、サビの“孤独なスライダァ”とか、耳にまとわりつくくらいのキャッチーさですか？

永友：松本さんが「サビ1行目は絶対大事だよ」ってことを繰り返しておっしゃってたんですよ。でも具体的にどうしろってことはおっしゃらな

いんです（※7）。だから自分なりに考えて考えて考えて。松本さんの詞で僕は「冬のリヴィエラ」（※8）が好きなんですけど、「そもそも“冬のリヴィエラ”って何だ？」って、意味がわからないんですよ。でもわからないけど、わからないことに今まで気付かなかったんですよ。

●僕はこの曲を聴いた時に「ありがとう」と思ってたんです。というのは、デビュー曲の「マウンテン・ア・ゴージャス」は、ある意味振り切れてるじゃないですか。あの曲で「キャプストですごく楽しいバンドだよ」みたいなイメージを植え付けたと思うし、インパクトがあったし。そういう意味で、次に発表する新曲はものすごい期待が乗ってるとか思うんですよ。で、その期待をいい意味で「ズドン！」と裏切る曲を持ってきてくれて。中途半端な裏切りだったらそこまでは思わなかったと思うんですよ。「マウンテン・ア・ゴージャス」とは全然違う次元で、インパクトがあって。初めて聴いた日はずっと頭の中で“孤独なスライダァ”っていうサビが鳴ってましたからね（笑）。

永友：サビに入った時にドカーンといききたいと思ってアレンジを詰めて。なかなか難しかったですけど、久保田光太郎さんという方にサウンドアドバイザーという形ですっていただいていた。最初にメンバー3人でスタジオに入った時に、“宮崎の日南海岸をバイクで走って、カーブを曲がらそう切った瞬間に一気に海がバツと広がって光が反射してるようなアレンジにしたい”と…走ったことないんですけど。

●また立った！（臍肌か）

永友：僕らもびっくりました（笑）。

●そういう意味でも、この曲は色んな人に聴いて欲しいですね。

3人：はい。

●たといえば、具体的に届けたい対象ってありますか？

永友：特定の年齢とか誰かっていうのではなくて。僕が宮崎に居た頃は、関々としながらも未来みたいなものは感じてたんですよ。いつかはそういう恋愛が海がバツと広がって。これを聴いてそういう気持ちを、ちょっと甘酸っぱい気持ちを感じてもらえたらいいなあと思います。

●そういう意味では、僕は懐かしい感じがしたんですよ。

永友：はいはい。そう、ちょっと故郷のことが田舎のことを思い出すような、そういうふう

に聴いてくれたりしたら嬉しいです。

●あ、また妄想ですか。

永友：妄想ですけど（笑）、そういう説明をしたんですよ。でもアレンジをしていくうちにだんだん混乱していくっていうか、日南海岸を忘れてちゃってたんです。それで、光太郎さんと最初に打合せした時に、「これはあれでしょ？永友くんは日南海岸とか走ってるイメージなんじゃないの？」と言われて。僕からはそんなこと一切言っていないんですけど。

●…鳥肌立った！

永友：みんなそれで最初のイメージを一気に思い出したんです。「あ、これだったんだ！」って。そこからみんなの意識がスッと一点に集まってる。すごいですね。「流星オールナイト」というタイトルはどうやって決まったんですか？

永友：タイトルは最後の最後に、曲が完成した時に決めました。みんなで50個ぐらいアイデアを出して、結局僕がみんなの意見をまとめて「流星オールナイト」に決まって。「オールナイ

ト」って言葉、今時ないよね」って話をして。●確かに思いつくのは「ダンシング・オールナイト」と…

永友：あとは「オールナイトでぶっ飛ばせ!!」ぐらいですもんね（※9）。「シングルとしては「ダンシング・オールナイト」以来かあ…、もんだ&ブラザーズだよ」って話をしてたんですよ。で、その後またレコーディングに戻って、もういちばん最後の段階で、ギターのダンギとローズ（鍵盤）を入れたんですね。ローズは浦清英さんで方に弾いてもらったんですけど、まるで星屑が流れるような素晴らしい感じに仕上がって。浦さんに「あのローズいい音ですね。ピンチでものなんですか？」って訊いたら「結構古くて、前の持ち主は「ダンシング・オールナイト」でこれを弾いてたらしいよ」って。

●また立った！（臍肌か）

永友：僕らもびっくりました（笑）。

●そういう意味でも、この曲は色んな人に聴いて欲しいですね。

3人：はい。

●たといえば、具体的に届けたい対象ってありますか？

永友：特定の年齢とか誰かっていうのではなくて。僕が宮崎に居た頃は、関々としながらも未来みたいなものは感じてたんですよ。いつかはそういう恋愛が海がバツと広がって。これを聴いてそういう気持ちを、ちょっと甘酸っぱい気持ちを感じてもらえたらいいなあと思います。

●そういう意味では、僕は懐かしい感じがしたんですよ。

永友：はいはい。そう、ちょっと故郷のことが田舎のことを思い出すような、そういうふう

に聴いてくれたりしたら嬉しいです。

●あ、また妄想ですか。

永友：妄想ですけど（笑）、そういう説明をしたんですよ。でもアレンジをしていくうちにだんだん混乱していくっていうか、日南海岸を忘れてちゃってたんです。それで、光太郎さんと最初に打合せした時に、「これはあれでしょ？永友くんは日南海岸とか走ってるイメージなんじゃないの？」と言われて。僕からはそんなこと一切言っていないんですけど。

●…鳥肌立った！

永友：みんなそれで最初のイメージを一気に思い出したんです。「あ、これだったんだ！」って。そこからみんなの意識がスッと一点に集まってる。すごいですね。「流星オールナイト」というタイトルはどうやって決まったんですか？

永友：タイトルは最後の最後に、曲が完成した時に決めました。みんなで50個ぐらいアイデアを出して、結局僕がみんなの意見をまとめて「流星オールナイト」に決まって。「オールナイ

ト」って言葉、今時ないよね」って話をして。●確かに思いつくのは「ダンシング・オールナイト」と…

永友：あとは「オールナイトでぶっ飛ばせ!!」ぐらいですもんね（※9）。「シングルとしては「ダンシング・オールナイト」以来かあ…、もんだ&ブラザーズだよ」って話をしてたんですよ。で、その後またレコーディングに戻って、もういちばん最後の段階で、ギターのダンギとローズ（鍵盤）を入れたんですね。ローズは浦清英さんで方に弾いてもらったんですけど、まるで星屑が流れるような素晴らしい感じに仕上がって。浦さんに「あのローズいい音ですね。ピンチでものなんですか？」って訊いたら「結構古くて、前の持ち主は「ダンシング・オールナイト」でこれを弾いてたらしいよ」って。

●また立った！（臍肌か）

永友：僕らもびっくりました（笑）。

●そういう意味でも、この曲は色んな人に聴いて欲しいですね。

3人：はい。

●たといえば、具体的に届けたい対象ってありますか？

永友：特定の年齢とか誰かっていうのではなくて。僕が宮崎に居た頃は、関々としながらも未来みたいなものは感じてたんですよ。いつかはそういう恋愛が海がバツと広がって。これを聴いてそういう気持ちを、ちょっと甘酸っぱい気持ちを感じてもらえたらいいなあと思います。

●そういう意味では、僕は懐かしい感じがしたんですよ。

永友：はいはい。そう、ちょっと故郷のことが田舎のことを思い出すような、そういうふう

に聴いてくれたりしたら嬉しいです。

●あ、また妄想ですか。

永友：妄想ですけど（笑）、そういう説明をしたんですよ。でもアレンジをしていくうちにだんだん混乱していくっていうか、日南海岸を忘れてちゃってたんです。それで、光太郎さんと最初に打合せした時に、「これはあれでしょ？永友くんは日南海岸とか走ってるイメージなんじゃないの？」と言われて。僕からはそんなこと一切言っていないんですけど。

●…鳥肌立った！

永友：みんなそれで最初のイメージを一気に思い出したんです。「あ、これだったんだ！」って。そこからみんなの意識がスッと一点に集まってる。すごいですね。「流星オールナイト」というタイトルはどうやって決まったんですか？

永友：タイトルは最後の最後に、曲が完成した時に決めました。みんなで50個ぐらいアイデアを出して、結局僕がみんなの意見をまとめて「流星オールナイト」に決まって。「オールナイ

ト」って言葉、今時ないよね」って話をして。●確かに思いつくのは「ダンシング・オールナイト」と…

永友：あとは「オールナイトでぶっ飛ばせ!!」ぐらいですもんね（※9）。「シングルとしては「ダンシング・オールナイト」以来かあ…、もんだ&ブラザーズだよ」って話をしてたんですよ。で、その後またレコーディングに戻って、もういちばん最後の段階で、ギターのダンギとローズ（鍵盤）を入れたんですね。ローズは浦清英さんで方に弾いてもらったんですけど、まるで星屑が流れるような素晴らしい感じに仕上がって。浦さんに「あのローズいい音ですね。ピンチでものなんですか？」って訊いたら「結構古くて、前の持ち主は「ダンシング・オールナイト」でこれを弾いてたらしいよ」って。

●また立った！（臍肌か）

永友：僕らもびっくりました（笑）。

●そういう意味でも、この曲は色んな人に聴いて欲しいですね。

3人：はい。

●たといえば、具体的に届けたい対象ってありますか？

永友：特定の年齢とか誰かっていうのではなくて。僕が宮崎に居た頃は、関々としながらも未来みたいなものは感じてたんですよ。いつかはそういう恋愛が海がバツと広がって。これを聴いてそういう気持ちを、ちょっと甘酸っぱい気持ちを感じてもらえたらいいなあと思います。

●そういう意味では、僕は懐かしい感じがしたんですよ。

永友：はいはい。そう、ちょっと故郷のことが田舎のことを思い出すような、そういうふう

に聴いてくれたりしたら嬉しいです。

●あ、また妄想ですか。

永友：妄想ですけど（笑）、そういう説明をしたんですよ。でもアレンジをしていくうちにだんだん混乱していくっていうか、日南海岸を忘れてちゃってたんです。それで、光太郎さんと最初に打合せした時に、「これはあれでしょ？永友くんは日南海岸とか走ってるイメージなんじゃないの？」と言われて。僕からはそんなこと一切言っていないんですけど。

●…鳥肌立った！

永友：みんなそれで最初のイメージを一気に思い出したんです。「あ、これだったんだ！」って。そこからみんなの意識がスッと一点に集まってる。すごいですね。「流星オールナイト」というタイトルはどうやって決まったんですか？

永友：タイトルは最後の最後に、曲が完成した時に決めました。みんなで50個ぐらいアイデアを出して、結局僕がみんなの意見をまとめて「流星オールナイト」に決まって。「オールナイ

地球と読者に優しいキャプスト注釈

※1：キャプテンストライダムの3人は2004年5月に宇都宮から上京。現在、東京ライブを満喫中。取材時に差し入れされたエリアを永友が必死に頬張っていたことから、あまり食生活は充実していないことが窺える。

※2：「犬の生活」。付き合っていた女性に対する後ろめたさを書いた曲。原曲は、酔っ払って寝て朝起きたらラジカセに録音されていた。

※3：学校でイチャイチャしているカップルを見かけると、ツバを吐きかけたくなるほど荒んでいた。

※4：インタビュー開始早々に、額にいっぱい汗をかいて喉家のごとく上着を脱ぐ永友。

※5：単に何も考えていなかったらしい。

※6：永友が好きなように作った歌詞にリスナーが意外と真面目に反応してくれたりして、ちょっと自己嫌悪に陥った時期もあった。

※7：森本隆陸。

※8：すすーのヒットチューン。スーパー・カップリング・シリーズ「冬のリヴィエラ/北の壁」（1998年発売）に収録。リヴィエラ（Riviera）とはフランスの高級リゾート海岸。「海岸の保養地」という意味もある。

※9：もんだ&ブラザーズ「ダンシング・オールナイト」（1980年発売）。自ら大声で叫んで喉を潤した、という逸話があるもんだよしのりのハスキーボイスで当時の日本を席巻した。「オールナイトでぶっ飛ばせ!!」はGUITAR WOLFのアルバム「RUN WOLF RUN」（1998年）に収録。

※10：3/8に代々木ZherのZOOで行われたイベントでも客電が落ちる前に出ちゃった。

※11：永友は出身地である宮崎の方言をやたら詳しく説明していた。

●では、キャプストの今後の目標は？

永友：デカいことをやりたいんだ。例えば、何万もの人が「Y.M.C.A.」(※12)をやってしまおうというような曲を作る。あれって、曲を聴いたら多分日本人はみんな心の中でやってしまうじゃないですか。

●100%みんなやりますね(※13)。

永友：そういう曲の秘密って何なんだろうなってすごい興味ありますね。単にキャッチーとかリズムがいいとか明るとかカッコいいじゃない何かがある気がするんですよ。

梅田：「Y.M.C.A.」やりたいですね(笑)。振り付きとかで。

菊住：祭りに感じて。ああいうことをみんなやってほしいなって。僕は個人的にはマイペースでいこうと思ってますけど。

●…すごくマイペースっほいんですけど。

菊住：(笑)。永友さんが曲を作ってるから、勝手に寄るべきかなと思ってたんですよ。好きなものを一緒に聴いてとか。でも、まあいいかなど。やっぱり自分の好きな音楽を聴いたりしてる方が、結果としてバンドにプラスになるだろうし。そんなに深く考えたわけではないけど(※14)、自分を見失うな、と。

●世の中に迎合して来たぞ。

菊住：迎合しなくてもいいんじゃないの、と。自分にストレートでいいんじゃないかと思っております。

梅田：俺は、割と片意地張って人の話に対して聞く耳持たない時があるんですよ。メンバー間でも普段の生活でも。もうちょっと人の話を受け入れるような人間になりたいなって。

永友：是非なってください。

一同：(笑)。

梅田：聞く耳持たない時があるなって思った、自分で、最近。うん。

永友：曲のアレンジとかしてもあるんですよ。それはいいんですけど、それぞれ意見があるんで衝突はいいんですけど。なかなか頑固ですね、梅田は(笑)。

●梅田くんは逆に、もうちょっと世の中に迎合しよう(笑)。

梅田：もうちょっと迎合して柔軟に。やっぱり楽しい方がいいだろうなと思います。「メンバーはよくわかんないから無し」って言うんじゃないかって、なんかちょっとわかんないけど、とりあえず体感してから判断してみようかなと。試してみたら。

永友：試してガッテン(※15)。

梅田：それでも嫌だったら嫌なかもかもしれないけど、上手いこといく場合もあるんですよ。イメージが出来なくても、とりあえずやってみるとわかるかもって。そういうチャンスを逃していくのはもったいないなと思ってたんですよ。

●それは色んな経験を新たに積んだこと afterwards からわかったこともあるでしょうね。

梅田：ちょっと大人になりました(ニヤリ)。

●今、目も光った！

しゃべりだしたら止まらない！ 狂った歯車はもう戻らない!! キャプスト・ノンストップ雑談



●最近何かハマってることありますか？

永友：カレーが好きなんです。前から好きなんですけど(※16)、ただ最近それが押さえ切れない程好きになって。

梅田：すごいですよ。昼カレー食べて帰る時にまた「カレー食いたいな」って。

永友：僕、3食カレーでもいいんですよ。むしろ3食カレー(※17)がいいんですよ。

●は？

永友：家でカレーいっぱい作るでしょ。それで腹いっぱいになって「明日もまたカレー食わなきゃ」って、嫌だと思ってるのは微塵もないってことです。カレー作ったら3食カレーですね。

●美味しいお店教えてください。

永友：そんなにまだ知らないんですけど、昨日渋谷のムルギーカレー(※18)食べましたね。ご飯がピラミッド型で三角形に盛り付けてあって、卵入りが有名なんですけど。カレーが掛かっているところにゆで卵の輪切りが並べてあるような。オーソドックスなカレー。

●洋食屋のカレーみたいな。

永友：はい。喫茶店のカレーみたいなちょっと煙たいような味がする。

●煙たい味？

永友：ほろ苦い。コクがあるっていうか。何なんですかね。ちょっと煙たいような(※19)。菊住：食べ終わった後に何故カレーがいいのかって話を延々としてました。「カレーの良さは食べた後の幸福感にあるんだよね」って。

●家でカレー作ったりしてるんですか？

永友：作りますよ。僕いちばん好きなカレーは人んちで食べるカレーなんです。お店で食べるカレーより。友達の家に行き行って、晩御飯で出してもらうカレーみたいなのがいちばん好きですよ。

●それは何なんですか？

永友：例えば肉の切り方ひとつ取っても、ウチは角切りだったんですよ。でも薄切り肉を炒めて入れるとか挽肉とかもあります。玉ねぎの炒め方も、自分では飽色になるまで炒めちゃうんですけど、人んちに行くとき一切炒めないで入れる時の玉ねぎの旨味が美味かったりするんですよ。結構違うんですよ、同じ具を使っ

て作っても、それが好きで。

●こだわったりしないんですか？

永友：全然。気まぐれでこだわってたりするところありますけど、小麦粉炒めてみたり。でもそれはほんとに気まぐれで、基本的にはもう何でもいいんですよ。レトルドでもいいですし。こだわりはじゃがいもを最後に入れる(※20)っていうくらい。

●菊住くんはどうですか？

菊住：強いと言えは豆苗の炒め物は最近食べ物系でハマってますね。つい最近人生で初めて食べたんですよ、中華料理屋さんで、感動して暇があれば買って来て作ってますね。

●食べ物のごぼりですけど、梅田くんは？

梅田：年末迎りから酒が好きになって。もともと好きだったんですけど。学生の頃とかはどんな酒でもいから浴びる程飲んでたんですよ。最近は量はたくさんは飲まないんですけど、好きな酒とかが出来てきてこだわりが出来たんですよ。

●今は何にハマってるんですか？

梅田：ラム酒です。結構詳しくなりましたね。

●ダークとホワイトどっちが好きですか？

梅田：ダークもホワイトも好きなんです。友達に連れて行ってもらったバーでお酒の話をしてたら、マスターが所謂モルトといわれる。スコッチウィスキーのシングルモルトというそういうカテゴリーのお酒を薦められて何杯か飲んだんですよ。そして結構構構はってて、でもそれぞれの個性とかに気付いてしまって(※21)。これに火が付いたらお酒はやばいなと。

interview : Takeshi.Yamanaka assistant : Aya.Fujisaka

single 「流星オールナイト」(※22,23)



風待レコード/SMAR
AICL-1604
¥1,223 (税込)
NOW ON SALE

<http://www.captain-a-gogo.com/>

※12：西城秀樹「YOUNG MAN (Y.M.C.A.)」(1979年発売)のこと。

一世を風靡した。サビでは「Y」、「M」、「C」、「A」と振り付きで歌う。

※13：みんなではない。だいたい30歳以上。

※14：あまり深く考えてない。

※15：どうしても言いたかったらしい。

※16：きっかけは、高校の時に部長を務めた哲学研究会の顧問の先生に「哲学と言えバインドだ！」と言われて作ったインドカレー。他にもどぶろく7を作った(違法)。

※17：漫画や本が好きな永友は、最近古本とカレーの街、神保町にハマっている。

※18：印度料理「ムルギー」のカレー。東京都渋谷区道玄坂2-19-2

※19：寝め言葉らしい。

※20：じゃがいもは固めがいいらしい。どうでもいい。

※21：梅田は違いの分かる男なのだ。

※22：「流星オールナイト」のPVは必見。世界一高いと言われるビル(地上800m)の屋上で演奏する3人。CGは一切使っていない、と言いつけるスタッフ。

※23：シングル「流星オールナイト」にはバンド初期の代表曲「舟」と「マウンテン・ア・ゴッコー・ツー」のライブ初音も収録。「舟」は実際に舟(フェリー)の中で書いた曲。エンヤット。